

あらためて『桐生市立商業高等学校教育ビジョン』のなかの

『2つのチカラ (Agency & Resilience)』について考えてみよう！

①『Agency (エージェンシー)』とは？？？

◆基本的な意味◆

『自分の意思で考え、判断し、行動する力』

・・・本校の教育活動の最上位目標『自ら考え、判断し、行動できる力』そのものです！

『他人に指示されるままでなく、自分自身の価値観や目的に基づいて動ける力』

◆教育におけるエージェンシー◆

教育の文脈では、生徒が以下のような姿勢を持つことを指します：

自分の学びに対して『主語』になる

社会や周囲の環境を『よりよくしたい』と願う意志がある

困難や選択肢の中で、自分で決断し、行動に移す

◆OECD ラーニング・コンパス 2030 における定義◆

『自分自身と他者、そして社会のより良い未来を創るために、意識的に目標を定め、行動する能力と意志である』



◆群馬県教育ビジョンにおける「エージェンシー」の定義◆



②『Resilience（レジリエンス）』とは？？？

簡単にいうと、『失敗や困難で心が折れそうになっても、そこから回復する力』です。そして、『誰もが持っていて、育てることができる力』であり、みなさんにぜひ意識してもらいたい『生きる力』のひとつです。言い換えれば、『精神的回復力』であり、最近さまざまな場面で目にする回数が多くなってきたコトバです。



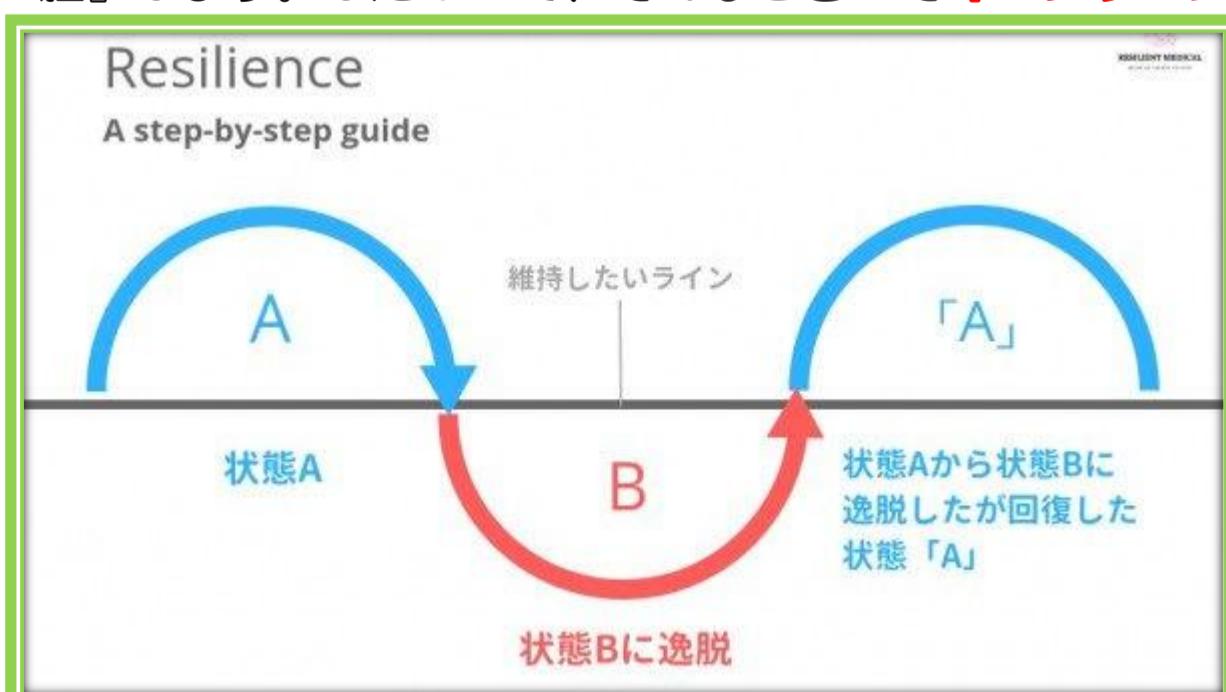
強い心というと、何があっても動じないタフな精神力を想像しがちですが、そこまで強靭な気持ちを持つことは難しいものです。その人の資質や性格などにも大きく左右されます。大人でさえ、どんなときも『折れない心』の持ち主というのは、多くはないはずです。

誰でもつらい状況や困難に直面することがたくさんあります。気持ちが落ち込み、ストレスに押しつぶされることもあるでしょう。そういうときに、『レジリエンス』という心の回復力を意識していれば、一度落ち込んだところから立ち直って、そこからどうするかを考えることができます。意識次第で、『育てることができる力』なのです。

『レジリエンス』を例えて言うなら、『頑丈な大木』というよりも『しなやかな竹』のイメージがよいでしょう。一見、頑丈な心でも、大木が強風に耐えきれず折れてしまうように、思いもかけないタイミングでポキッと折れてしまうことがあるかもしれません。一方、『竹のような弾力性、柔軟性を持つ心』であれば、どんなに逆境に押し倒されてもやがて『ゆっくりと立ち上がる・起き上がる』ことができるのです。『立ち直るスピード』は人それぞれで、時間がかかっても構いません。



人が目標に向かって真剣に取り組んでいる際に、『困難』や『失敗』は当然生じてくるものです。『避けては通れないもの』と言っても過言ではないでしょう。当然、うまくいかなければ『落胆』します。したがって、そんなときこそ『レジリエンス』を鍛えるチャンスなのです。本校教育



ビジョンのなかにこ『粘り強く取り組む力』『困難を乗り越える力』を入れ、みなさんに日ごろから意識して、自分のなかで育んでいただきたいのです！

まずは『竹のようなしなやかな回復力』を『意識』するから始めてはいかがでしょうか？『ゆっくりと立ち上がる・起き上がる』イメージでよいのです。